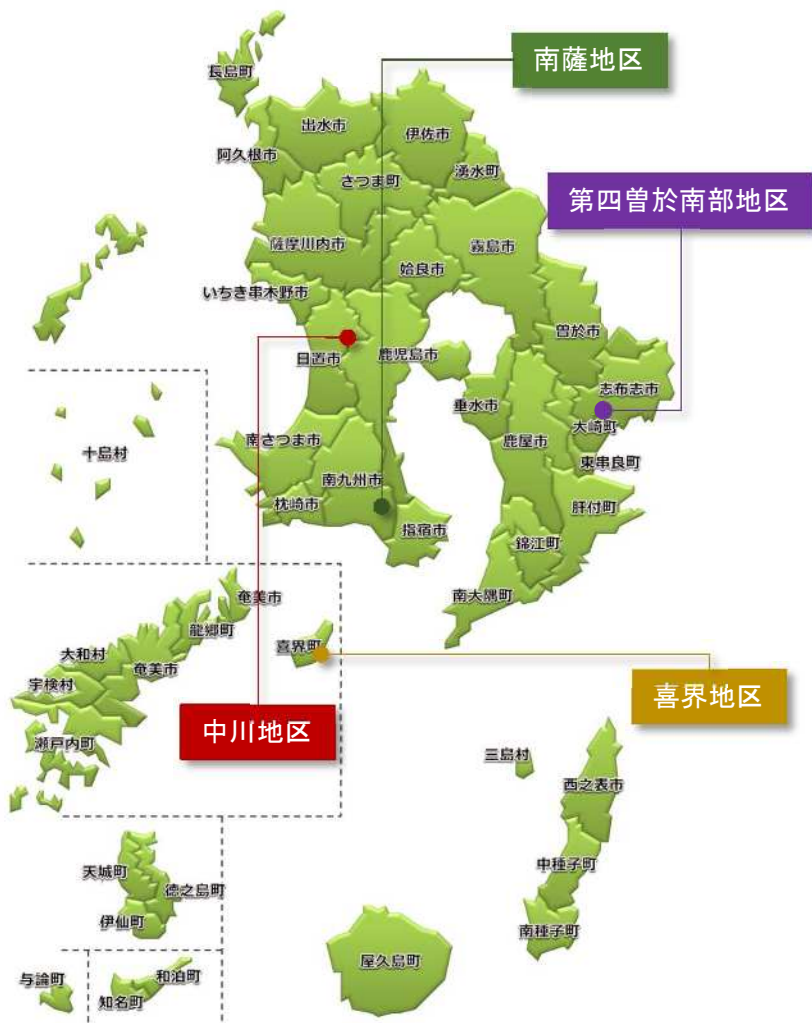


# か

～ 我が国の食料供給基地を目指して～

# かごしまの農業農村



大規模畑地かんがいを契機とした営農の近代化により  
**農業産出額が増加**

【指宿市, 南九州市, 枕崎市 南薩地区】

P1

畑かん施設整備を契機とした経営規模拡大により  
**農業生産額が増加**

【志布志市有明町, 曾於郡大崎町 第四曾於南部地区】

P3

基盤整備・多様な主体の参画 (水土里サークル活動など) により  
**地域を活性化**

【日置市伊集院町 中川地区】

P5

「白ごま」の生産拡大と6次産業化の推進による

**離島振興**

【大島郡喜界町 喜界地区】

P7

平成30年 5月  
鹿児島県

取組の概要

- ・大規模畑地かんがいや区画整理により営農の効率化や高収益作物への転換を図る。
- ・農地の集約化を進めるとともに、農業経営体の法人化や新規就農者への支援を行う。
- ・多面的機能支払や中山間地域等直接支払等を活用し、地域の農地・農業用施設の保全を図る。

取組前

水資源に乏しい特殊土壌地帯での営農の展開

- 保水性が乏しい火山灰性土壌(コラ・シラス等)が広がる地域
- 長年甘藷など限られた作物のみの営農を余儀なくされていた



特殊土壌 (シラス)



特殊土壌 (コラ)



地域の代表作物：甘藷

干ばつに強い甘藷は現在でも南薩地域を代表する作物の一つ  
ただ、茶や野菜等の拡大に伴い、作付面積は相対的に小さくなっている

- 池田湖を貯水池として、S45年から国営事業で基幹的水利施設(頭首工・揚水機場、幹線水路など)を整備
- S47年から県営事業で畑地かんがい施設、区画整理、農道などを整備

取組内容

区画整理や農業用水の安定的な供給による経営規模の拡大と高収益作物の生産拡大

地域の概要

- 位置  
鹿児島県指宿市・南九州市・枕崎市
- 対象面積 6,072ha
- 主要作物  
茶・甘藷・野菜  
花類ほか



南九州市側から開聞岳を望む



南薩地区畑地かんがい位置図

主な支援事業

- 【大規模畑地かんがい施設整備】  
国営かんがい排水事業 (S45~S59)  
県営畑地帯総合土地改良事業 (S47~H6)
- 【その他の関連する整備】  
団体営事業による末端散水施設整備 (S52~S62)  
県営事業による施設の更新整備 (H25~H34)  
施設管理体制整備事業 (H12~)



整然と区画整理された茶畑



収益性の高い営農への転換  
(写真：そら豆)

地域協働の保全活動

- ・水土里サークル活動 (H19~)



基本的保全活動  
(水路の土砂上げ・草刈り)  
水路の泥上げ、草刈り



農業用施設の長寿命化活動  
(農道のコンクリート舗装)  
農道のコンクリート舗装

# 取組後の効果

## 生産現場

### 効率的な水利用による労力の軽減



- 畑地かんがいを使った、効率的な水利用

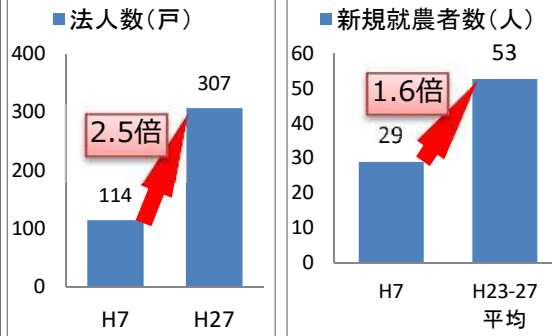
### 畑地かんがいを利用した近代的な営農への取り組み



- 畑地かんがい施設を使った、茶や施設園芸など多岐に渡る営農を展開

## 担い手

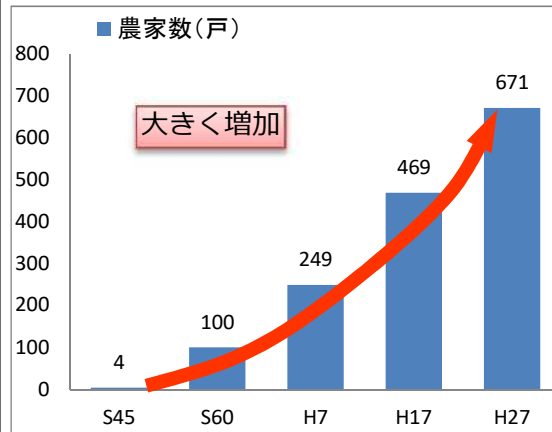
### 新規就農者支援、法人経営体制の推進



- 農家や行政などの関係機関が連携し、新規就農の支援や法人の育成を推進
- 着実に成果を上げ、新たな担い手として期待

### 大規模経営農家の増加

- 整備を契機として農地の集積が加速
- 経営規模5.0ha以上の大規模農家が增加



出典：農林業センサス

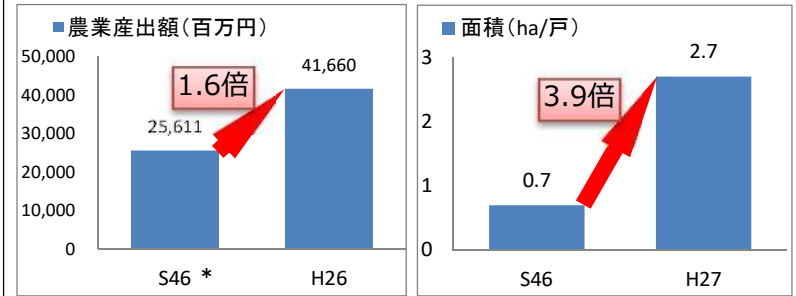
※本表の数字は全て3市(枕崎市・指宿市・南九州市)の合計

## 農業所得

### 規模拡大等による農業産出額の増加、高収益作物への転換

#### 【農業産出額の増加、一戸当たり農地面積の増加】

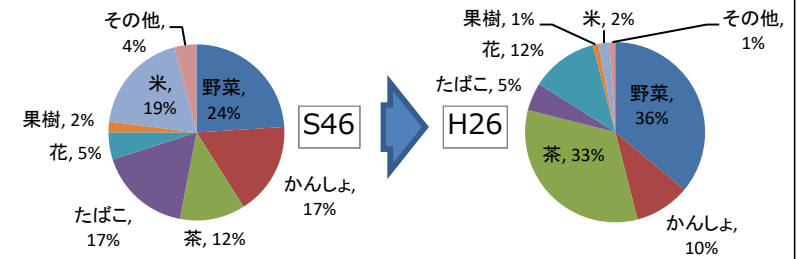
- 本地域の農業産出額は、事業実施前と比べて1.6倍に増加(物価指数換算)
- 農家一戸当たり農地面積は、S46年の約0.7haから、H27年は約2.7haと約3.9倍に増加



\*：消費者物価指数による換算値

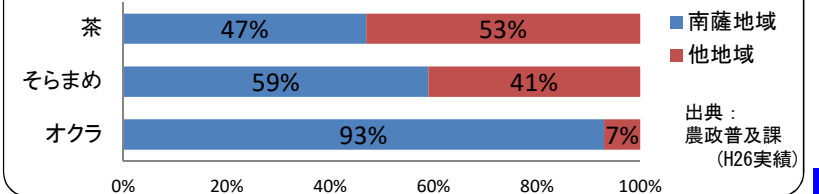
#### 【畑地かんがい導入による農業構造の変化】

- 畑地かんがい導入で、事業開始前と比べて野菜や茶、花類など収益性の高い農作物の比率が大きくなった。



#### 【地域ブランドの確立】

- 畑地かんがい + ブランド作物の生産体制 = シェアの拡大



出典：農政普及課 (H26実績)

# 畑地かんがいの整備と共に発展する農業法人

## ～ 鹿児島県大隅半島 A法人の事例 ～

【志布志市・大崎町（第4曾於南部地区）】

取組の概要

- 不安定な地下水依存の営農から、通水を機に畑地かんがい用水を活用し、生産規模を拡大
- 自走式散水器具を活用し、かん水作業の軽減と生産性の向上を実現

### 設立時

脱サラ同級生3人  
「情熱・努力・感謝」で会社設立

- 平成10年に新規就農
- 平成14年に大学の同級生3人で法人化
- 基幹作物：葉ねぎ
- 作付面積：約5ha
- 雇用：常時14名、臨時6名

取水量が不安定な地下水を水源とした営農



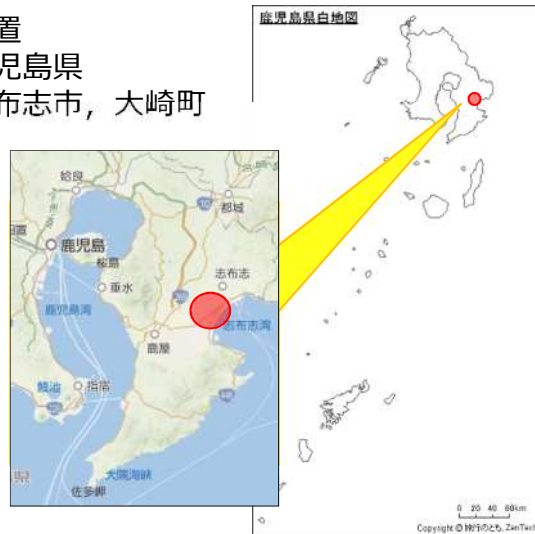
通水前の水源の様子

### 基盤整備の取組内容

区画整理や畑地かんがいなどの条件整備を行い、規模拡大に対応した営農を応援

#### 地区の概要

- 位置  
鹿児島県  
志布志市，大崎町



- 営農ビジョン推進品目  
・だいこん，キャベツ，にんじん，レタス，はくさい，ごぼう，さといも，かぼちゃ，さつまいも，茶 など
- その他基幹作物  
・葉ねぎ

#### 主な支援事業

- 【畑地かんがい整備（第二次整備）】  
国営かんがい排水事業（H1～20）  
畑地帯総合整備事業（H12～）  
産地パワーアップ事業（H28～）



輝北ダム（水源池）

ファームポンド



#### 畑地かんがい営農推進

畑地かんがい営農ビジョンに基づき、受益農家と関係機関・団体が一体となって畑地かんがい営農を推進

- ①畑地かんがい営農ビジョン策定（H20.3～）  
策定主体；曾於畑地かんがい営農推進本部
- ②実証・展示ほ場，畑かんマイスターの活用

# 取組による効果

## 生産現場

### 自走式散水器具で労力軽減



- 自走式散水器具(スマートレイン)等を積極的に導入し労力を軽減。
- 散水器具研修会にも参加し、かん水技術取得中

### 安定した農業用水により施設栽培も拡大



- 畑地かんがい用水が確保されたことにより計画的な作付・出荷が可能となり販路拡大を展開
- 安定した農業用水により施設の規模拡大中

## 担い手育成・雇用拡大

### 担い手の確保・育成



- 研修会での事例発表や農業大学生の研修受け入れ、卒業後の雇用等担い手・新規就農者を支援

### 地域の雇用が拡大



- 葉ねぎの出荷調整作業は、50名のパート雇用により実施
- 規模拡大とともに雇用を拡大  
常時雇用14名 ⇒ 35名(2.5倍)

## A 法人の通水後の経営状況

### 通水を機に生産が急拡大

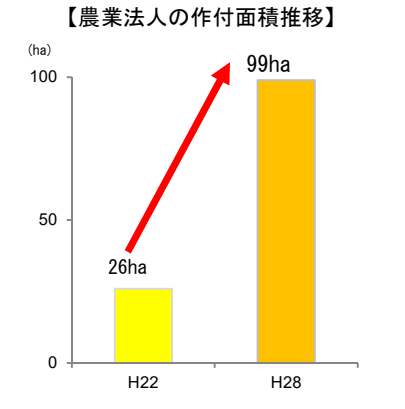
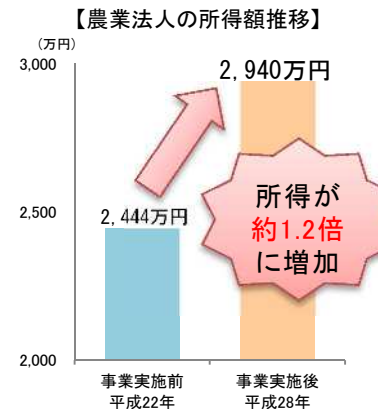
- 【営農規模】 約89ha
- 【基幹作物】 だいこん, 葉ねぎ, キャベツ
- 【雇 用】 役員3名, 常時35名, 臨時6名



A 法人が経営する施設

### 経営規模の拡大と6次産業化による法人の農業所得額の増加

- 事業完了による通水を契機に、農業法人の経営規模が急拡大し所得額も向上。新たに建設した大根の選果場と加工品のライン導入等により、**益々の所得額向上も期待され、地域の農業をリード**している。



【出典：大崎町役場調べ】

# 基盤整備・多様な主体の参画（水土里サークル活動など）により地域を活性化

いじゅういん  
【日置市伊集院町 中川地区】

取組の概要

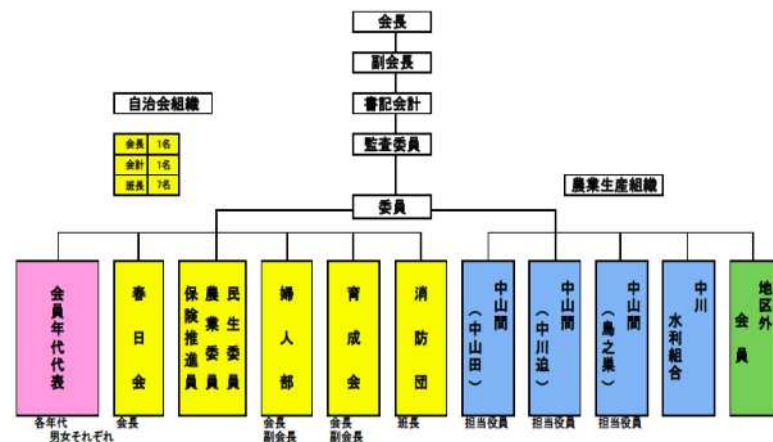
- 区画整理や畑地かんがい施設，活性化施設等の導入より，地域営農（イチゴの生産・販売・加工）を維持・向上
- 農村協働力（女性・企業の参画，I・Uターンなど）を活かした地域コミュニティを維持・強化

## 地区の概要

- 組織名 中川ふるさと保全会
- 場所 鹿児島県日置市伊集院町中川
- 取組面積 30.2ha（田 5.7ha、畑 24.5ha）
- 対象施設 開水路 8.7km、農道 7.3km、畑地かんがい施設一式，配水池 3基
- 主な構成員 農業者、自治会（婦人部・育成会）年代別代表・地区外会員、水利組合
- 交付金(H29) 176万円（農地維持、資源向上（共同・長寿命化））
- 取組開始年度 平成24年度～
- 組織図

### 中川ふるさと保全会 組織図

平成26年度



※年代別代表に男女それぞれを選び女性意見を反映

## 取組内容

### 基盤整備

○中山間地域総合整備事業など



ファームポンド



チェスト館（活性化施設）

○活動火山周辺地域防災営農対策など



ハウス・高設栽培・環境制御

### 水土里サークル活動 資源向上（共同）



農道の草刈り



遊休農地の発生防止



景観保全（ひまわり）



応募した標語の手作り看板



集落点検ワークショップ



イチゴ大福づくり食農教育

# 取組による効果

## 生産現場

### 散水施設整備による産地の維持



イチゴの苗づくり(夫婦二人三脚)

- ・昭和36年に所得向上のため県内初のイチゴ栽培を開始
- ・畑地かんがいを導入して45年、安定した栽培が可能(生産コストの低減)

### 地域の話し合いによる新規就農支援 雇用の場の創出



地元のイチゴ選果場(貴重な雇用の場)

- ・ここ5年間でI・Uターンにより8名が新規就農、地域の担い手としての活躍が期待
- ・行政とも連携し、イチゴ栽培の省力化技術等を順次導入中

### 地域の話し合いによる6次産業化(企業連携)



イチゴリキュールの商品化

- ・イチゴを使った特産品開発にも力を入れ、地元酒造メーカーの協力を得てイチゴリキュールを商品化
- ・平成29年7月に販売開始し、29年度は4000本を売り上げ

## 活性化施設の生産者売上額の増加

### 株式会社 Chest 館による運営

日置市の農畜産物の流通、展示、販売等を行い、農業及び観光に関する情報を提供、都市農村交流等に関する紹介もを行い、農業農村としての活性化を図ることを目的



施設の整備拡充

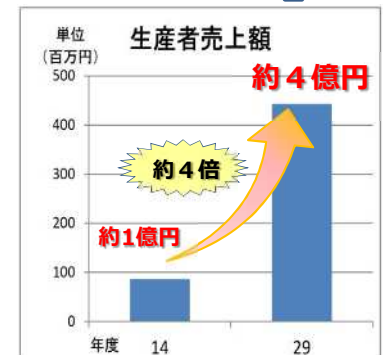
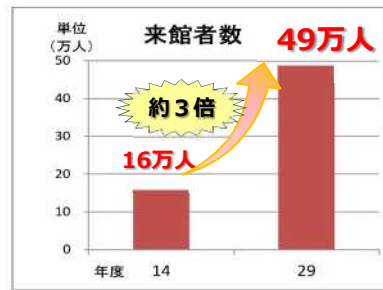


Chest館の体験農園



地域の米・農産物の販売

○平成14年の開館以来、来館者数、生産者数、生産者売上額は大幅に伸びている。



加工品の販売(写真:日吉加工グループの豆腐, なべスープ等)

中小農家が  
生産・出荷

遊休農地の  
発生防止  
+  
地域コミュニティの維持



- 地下ダムの建設により、新たに畑かん用水が確保されたことを契機に、ごまやトマト等の園芸作物生産を拡大。
- 生産された白ごまを利用し、ドレッシング等の商品開発を行い、喜界島の特産品として製造・販売。
- 希少動物に配慮しトンネル内から地下ダムを施工。希少動物、地下ダムトンネルを広報・教育資源として活用。

## 取組前

恒常的な水不足による不安定な農業経営

【営農規模】 2,040ha  
 【作目】 さとうきび 1,709ha  
 トマト 2ha  
 かぼちゃ 20ha  
 メロン 11.5ha 等

- 台風常習地帯で、河川等の水源がないため、サトウキビを基幹作物とした不安定な農業経営



給水スタンドでの水汲み

不安定、非効率な  
営農

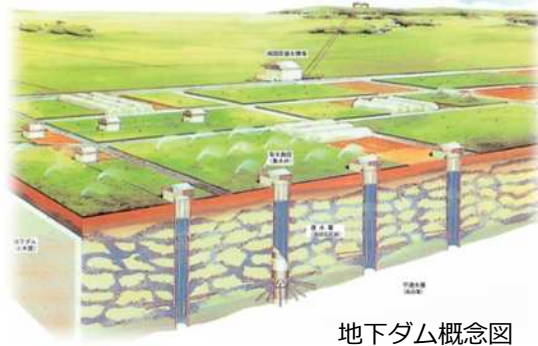


手作業による散水

## 取組内容

### 畑かん施設、区画整理

【農業生産基盤整備】  
 国営かんがい排水事業(H4~H15)  
 県営畑地帯総合整備事業(H8~H22)



地下ダム概念図

### 営農支援センターの整備

新農業構造改善事業 (H6)

### 栽培施設の整備

奄美群島振興交付金 (H26~H30)  
 ・平張ハウス、営農ハウス整備

## 取組後

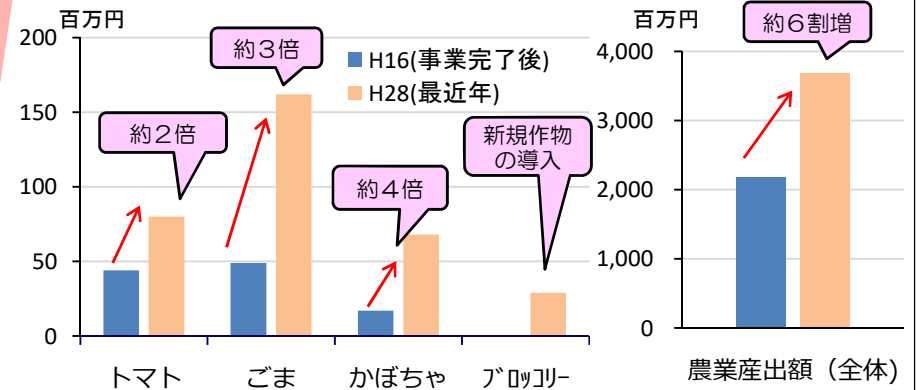
### 畑かん整備による労力の軽減と高収益作物の導入

【営農規模】 2,247ha  
 【作目】 さとうきび 1,757ha  
 トマト 5ha  
 ごま 129ha  
 かぼちゃ 25ha  
 ブロッコリー 13ha 等



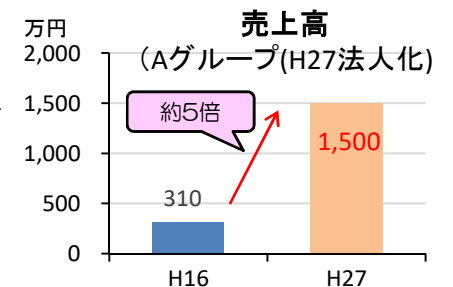
### 【農業生産額の向上】

- 高収益作物の産出額が向上



### 【6次産業化の推進】

- 女性グループが中心となり、喜界島の農産物を活用した加工品の開発・生産・販売を実施。





Tip

### ごまの自給率は 0.1%

○ 国産ごまの殆どは喜界町で生産されています。



※ 夏植えさとうきびの前作として栽培

### ◆ 島の財産である地下水を保全するために・・・

地下ダムの整備を契機に、「地下水は島の財産」との観点から、施肥体系を見直し、肥料成分がゆっくりと溶け、無駄になる部分が少ない緩効性肥料の普及を通して、島ぐるみで環境保全に取り組んでいます。

### ◆ 誰がどのように・・・？

地元農家の強い要望の元に、県、町、農家が一丸となって、事業化を推進しました。

**きっかけ**

恒常的な水不足の解消と安定した農業用水の確保への地域の要望

**Step1 (S63)**

**事業推進協議会の設置**

- 地下ダムを水源とする畑かん整備事業の実現に向けて、県、町、JA、農家等により喜界地区畑地かんがい事業推進協議会を設立
- 関係機関への要請、畑かん事業の地域住民への啓発活動等を実施

**Step2 (H4~H22)**

**基盤整備の実施**

- H4から国営かんがい排水事業を、H8から国営関連事業を実施し、水源、畑かん施設を整備
- 地上部の希少動物（オオゴマダラ）への配慮から、トンネル内から地下ダムの止水壁を施工

**Step3 (H6)**

**営農支援センターの整備**

- 地下ダムによる畑かん営農を推進するため、営農支援センターを整備
- 町奨励作物の苗木の生産・販売、新規作物の栽培実証及び新規就農者等の研修を実施。

**Step4 (H9)**

**ハードとソフトの連携組織の設立**

- 事業を契機に、県、町の整備部局、営農部局、JA、製糖工場等による協議会を設置
- 関係機関が連携して、実証ほ場の設置、現地指導等を行い、畑かん営農を推進

奄美群島振興交付金を活用し、営農ハウス等を整備

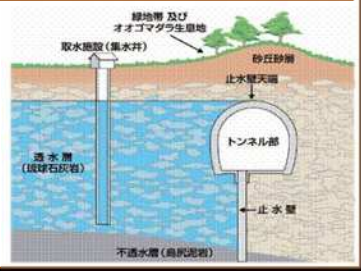
### ◆ 町の保護蝶である「オオゴマダラ」を守るため・・・

地下ダム止水壁工事区間の一部が、希少動物の生息域だったことから、トンネル内から止水壁を施工し、生息地を保全しました。

トンネル内では、地下ダムの仕組みを学ぶことができ、保護蝶と共に地下ダムを広報・教育資源として活用しています（来訪者約1,900人/年）。



オオゴマダラ



**将来に向けて**

- ☑ 島内で安定水源を持たない地域への新たな水源、畑かん施設の整備
- ☑ そら豆、白ごまなど喜界島産の農作物を利用した更なる6次産業化の進展
- ☑ 島内の農家、農産物加工業者等のネットワーク化による喜界島ブランドの確立と販路拡大

今後の展望

**Step7 (H27)**

**流通・出荷体制の強化**

- 畑かん整備による園芸作物の拡大に伴い、流通・出荷体制を強化するため、JAが選果機、製氷機を整備

**Step6 (H26)**

**新規作物の導入**

- 他県の企業と連携し、新規作物として唐辛子の試験栽培を実施。
- H28から本格的な栽培を開始するとともに、企業が加工場を建設予定。

**Step5 (H15)**

**6次産業化の取組**

- 町内の女性グループの一つが、島内産のゴマを利用し、ごまドレッシングを開発
- その後も多くの商品を開発・販売し、H27には、法人化



喜界島の農産物を利用した加工品